園だより

つくし

令和６年１１月２７日

新潟市立結幼稚園

子どもは、その言葉掛けを求めている

園長　本多　郁代

昭和の時代に幼少期を過ごした私が、この年齢になり当時を振り返って、残念に思うことがあります。それは、「大人たちから、もっとやる気が出る言葉掛けをしてほしかった」と思うことです。いろいろ頑張っても、先生や親から掛けられた言葉を思い出すと、「次はもっと～しなさい。」（強要）「〇〇さんは～だけど、あなたは～ね。」（誰かとの比較）などのフレーズが浮かびます。褒められた記憶は少なく、「できることが当たり前、努力をすることが当たり前」という昭和独特の空気が流れていたように思います。時には悔しい気持ちが沸き起こり、頑張るエネルギーとなったこともありましたが、大方は、やる気を吸い取られ、自信を吸い取られてきたように思います。

そのようなことを思い出しながら、園での様子を見ていると、「自分もこんな言葉掛けをして欲しかった」と思うことが多々あります。例えば、子どもが「先生、できた！」と言いながらできたことやできたものを見せると、「わあ！すごいね。さっきからずっと頑張っていたね。」と先生が返します。努力を認められた子どもは、満足そうです。また、子どもが自らの判断で友達を助けたり手伝ったりした時には、「〇〇さん　ありがとう。（友達が困っていることに）よく気が付いたね。」と返します。行為を価値付けされた子どもは笑顔になります。さらに、できていないことを指摘するのではなく「こうなったらいいね」と肯定型のワードを選んで子どもたちに話すと、子どもたちは頑張ろうと動き出すのです。

やる気が出る言葉掛けは、人それぞれ違うと思いますが、称賛し、認め、その時々の行為をしっかり価値付けて子どもに返すことはとても有効です。そして幼稚園一番のおすすめは、肯定型のワードで期待する姿を子どもに伝えることです。

最近では、2023 年の WBC で大谷翔平選手がロッカールームで話した「憧れるのはやめましょう～勝つことだけを考えて行きましょう。さあ行こう！」のスピーチで有名になったペップトークなども注目を浴びています。

それぞれの年齢に合ったどんな言葉掛けが、子どもの心に響きやる気を引き出すのか、ご家庭でも子どもが求めている言葉掛けをぜひ工夫してみてください。もちろん幼稚園でも一人一人の子どもの姿に合わせて考えていきたいと思っています。